



アドビ システムズ 株式会社
141-0032 品川区大崎 1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー 19F

アドビ、2020 年第 1 四半期の業績を発表

四半期収益が初めて 30 億ドルを超える

※米国本社発表の業績プレスリリースは[こちら](#)をご覧ください。

【2020 年 3 月 13 日】

米国カリフォルニア州サンノゼ発（2020 年 3 月 12 日）：Adobe（Nasdaq：ADBE）（本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビ）は本日、2020 年度第 1 四半期（2020 年 2 月 28 日を末日とする）の決算を発表しました。

第 1 四半期の業績ハイライト

- 2020 年度第 1 四半期の収益は過去最高となる 30 億 9,000 万ドル、前年同期比 19%増となりました。GAAP ベース希薄化後 1 株当たり利益（EPS）は、1.96 ドル。Non-GAAP ベース希薄化後 1 株当たり利益（EPS）は、2.27 ドル。今回の 1 株当たりの利益（EPS）は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大によって Adobe Summit をはじめとする企業イベントの中止に関連する費用が反映されており、四半期の GAAP および Non-GAAP ベース希薄化後の EPS に 0.07 ドル影響しました。
- デジタルメディア分野の収益は 21 億 7,000 万ドル、前年同期比 22%増。うちクリエイティブ分野の収益は 18 億 2,000 万ドルに拡大、Document Cloud の収益は 3 億 5,100 万ドルを達成。デジタルメディア分野の年間経常収益（Annualized Recurring Revenue - ARR）は当四半期末時点で 87 億 3,000 万ドルに拡大し、前四半期比 4 億ドルの増加。クリエイティブ分野および Document Cloud の ARR は、それぞれ 75 億 8,000 万ドル、11 億 5,000 万ドルに拡大。
- デジタル エクスペリエンス分野の収益は 8 億 5,800 万ドル、前年同期比 15%増。
- 第 1 四半期の GAAP ベース営業利益は 9 億 3,700 万ドル、non-GAAP ベース営業利益は 12 億 5,000 万ドル。GAAP ベース純利益は 9 億 5,500 万ドル、non-GAAP ベース純利益は 11 億 1,000 万ドル。
- 営業キャッシュフローは 13 億 2,000 万ドル。

- 残存履行義務 (Remaining Performance Obligation) は 99 億 1,000 万ドル。
- 当四半期中に約 240 万株を買い戻しました。

GAAP 業績と Non-GAAP 業績の対応については、[プレスリリース \(英語版\)](#) 末尾とアドビの Web サイトで説明します。

役員のコメント

アドビの会長、社長兼 CEO (最高経営責任者) であるシャントヌ ナラヤン (Shantanu Narayan) は次のように述べています。

「第 1 四半期は過去最高の業績を達成し、四半期収益が初めて 30 億ドルを超えました。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が拡大しているため、従業員の安全を確保し、顧客への対応と長期的な事業機会を重視する戦略を取っています。」

アドビのエグゼクティブ バイス プレジデント兼 CFO であるジョン マーフィー (John Murphy) は、次のように述べています。

「第 1 四半期は収益、利益、キャッシュフローのいずれも好調でした。経常収益モデルとリアルタイムの可視性を事業において実現しているアドビは、この不透明な状況においてユニークな立場にあります。」

2020 年度第 2 四半期の財務目標

アドビが本日発表する第 2 四半期の財務目標は、利用可能な最新のデータ情報に基づき、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の拡大によるグローバルな影響の予測を反映しています。アドビのビジネスモデルはサブスクリプションをベースとしているため収益、利益ともに比較的可見な見通を立てやすくなっていますが、以下の分野では影響を受けると考えています。

- 企業が発注の決断を見合わせた場合、コンサルティング サービスの実施の遅れとマーケティング予算の縮小
- 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響が大きい国における消費者による支出の減少
- チャネル パートナーによるソフトウェア ライセンス収益

感染症拡大の影響が大きい国や業界では、このような影響が大きくなると予想されます。

次の表はアドビの 2020 年度第 2 四半期の財務目標を要約したものです。

2020 会計年度第 2 四半期収益合計	約 31 億 7,500 万ドル
デジタルメディア分野の収益	前年同期比約 19% 増

デジタルメディア分野の純 ARR（年間経常収益）	純 ARR で約 3 億 8,500 万ドル	
デジタルエクスペリエンス分野の収益	前年同期比約 12% 増	
税率	GAAP: 最大 10%	Non-GAAP: 最大 10%
株式数	最大 4 億 8,600 万株	
1 株当たり利益（EPS）	GAAP: 最大\$2.10	Non-GAAP: 最大\$2.35

GAAP 財務目標と Non-GAAP 財務目標の対応については、[プレスリリース（英語版）](#) 末尾で説明します。

将来的観測の開示（Forward-Looking Statements Disclosure）について

本プレスリリースは、実際の業績を大幅に異ならせる可能性があるリスクおよび不確実性を内包した、事業の勢い、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大が事業および業績に与える影響、市場動向、顧客の成功、収益、営業利益、季節変動、年間経常収益（ARR）、その他の営業外費用、GAAP ベースおよび non-GAAP ベースの課税率、GAAP ベースおよび non-GAAP ベースの 1 株当たり利益、株式数に関連する将来的観測を含みます。実際の業績を異ならせ得る原因としては、以下が挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- 競争において成果をあげることの失敗
- 顧客の必要に応える製品およびサービスの開発、獲得、市場投入、提供の失敗
- 新技術の導入
- 情報セキュリティおよびプライバシー
- アドビまたは第三者によって提供されるホステッド サービスに障害または遅延が生じる可能性
- マクロ経済の状況および新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行が経済に与える影響
- サイバー攻撃に関連するリスク
- 複雑な販売サイクル
- 当社のサブスクリプションサービスによる収益の認識タイミングに関連するリスク
- サブスクリプション サービスの更新比率の変動
- 過去および将来の買収において見込まれた利益達成の失敗
- 第三者との重要な戦略的取引関係における成果をあげることの失敗
- 会計原則および税規則の変更
- 当社が事業を行っている国々における金融市場および経済情勢の不確実性
- 多国籍企業におけるその他のさまざまなリスク

これらおよびその他のリスクと不確実性についての解説に関しては、2019年11月29日を末日とする2019会計年度のアドビの年次報告書（Form 10-K）、および2020年度に発行されたアドビの四半期報告書（Form 10-Q）をご参照ください。

本プレスリリースに記載された財務情報は、現時点で得られる情報に基づいた推定を反映したものです。これらの数値は、2020年2月28日を末日とする四半期についてアドビが2020年3月に提出予定の四半期報告書（Form 10-Q）に記載される実際の業績数値とは異なる場合があります。アドビはこれら将来的観測について情報更新の義務を負わず、当面は更新の意図もありません。

アドビについて

アドビは、世界を変えるデジタル体験を提供します。アドビシステムズ株式会社はその日本人です。同社に関する詳細な情報は、[Web サイト](#)に掲載されています。

©2020 Adobe Inc. All rights reserved. Adobe and the Adobe logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe Inc. (or one of its subsidiaries) in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.